



NPO法人ジャパンデンタルミッション

海外活動報告書

場所 フィリピン共和国・カオハガン島

期間 2013年2月6日～2月11日

参加メンバー

上段左2番目から 中辻孝一 T 上崎秀美 D 河内光明 T 大西富子 H 倉橋朋子 H 栗山雅行 V 濱佐智代 H
橋口敦 T 中田有香 D 香織さん(カオハガンスタッフ)

中段左から 近藤理沙 H 松田ゆりこ H

下段左から 崎山氏、順子氏、今村ちひろ D 沢田宗久 D 佐川寿会 H 新井広恵 H 田岡則子 D

歯科医師5名 歯科技工士3名 歯科衛生士7名 ボランティア1名

全16名でのミッションとなる。



活動内容

2月6日（水曜日）

今回関空組、成田組とも遅れがあり、マクタン到着、合流は19:30頃
カオハガン島には20時30分ころの到着。

夕食を取りつつ ミーティング 自己紹介などする。

今回は、義歯中心のシフトですすめる。検診チームは、媒体、TBI、チェックアップし、
治療が必要な子供は、強制的にバランガイホールまで連れて行き、治療の継続管理を推し
進める予定。

2月7日（木曜日）



前回より朝食7時半スタートにしてもらい スムーズに9時から診療開始できるようになる。まず目標の義歯作製15名を午前中に印象すすめる。

技工士さんたちは、ホールの裏の風通しよく、海が見える場所での機器設置となる
検診班は、状況を見て小学校へ移動し、媒体、TBI、チェックアップとすすめ、午後からはホールもごった返し、スタッフそれぞれが自分のできることを探し、協力して治療を進めていった。

午後、一部発電機の不調により機器が止まり、困った点は明日から母屋より送電してもらうことにより解決する。

2月8日（金曜日）

一名の体調不良者が出たため、栗山Vとエマさん付き添いでマクタンの病院へ。
今日は検診チームにDr 沢田が同伴し、絵具、車いす、歯ブラシ、医療用エプロンなどの
ドネーションも行う。



診療班は、集中して咬合採得、一般診療をこなしていった。

他島からの患者もいて、なかなか予定どおりには進まないこともあったが、2日目も順調に進行。

結果的に、1名の体調不良者は、インフルエンザ入院ということになり、その点は非常に残念であった。

2月9日（土曜日）

診療は続けながら 義歯セットの最終日となる。

本日は、奨学生でセブの歯科大学へ通う エッジ・ナノイも合流し、活動に協力。

予定外の作製、修理も加わり、技工士さんたちの疲労もピークとなるが、全員の協力により無事終了する。

夕刻、恒例の映画大会は途中雨による中断もあったが、皆楽しく鑑賞していた。



2月10日（日曜日）



9:00より診療開始し、10時過ぎからは徐々に片付け始める。

機器の作動チェック、荷物の在庫管理調査とパッキング。11時過ぎには撤収作業、

清掃終了し、昼食後はフリータイムとなる。

今回は昼の潮周りがよく、ボートを出せたので、サンゴ保護区の視察をかねてシュノーケリングチ

ームと魚釣りチームに分かれて最終日の労をねぎらう。

その後は15時半より恒例の大運動会！

プログラムは、リレー・お玉リレー、玉入れ、綱引き、大縄跳びなどで子供たちの笑顔が広がった。

賞品の古着、歯ブラシなどの配布も行う。

夕刻には、タコも手に入り恒例のタコ焼きも開催される。

夕食後は、最終ミーティング、最終の活動報告、ひとりひとりの反省や感想、Dr 沢田による総括コメントがあり、メンバーで過ごす最後の夜を楽しんだ。

2月11日（月曜日）

潮周りが悪く、5時20分、母屋集合し、浅瀬を歩いての乗船となる。リーフエッジを迂回して8時頃のハドソン到着

入院メンバーのピックアップに2名が行き、他はマーケットにて朝食をとり、空港合流となる。

総括

チームリーダーDr 沢田のコメント

総 括

今回は、歯科医師5名、歯科技工士3名、衛生士7名、ボランティア1名で、仙台・東京・静岡・大阪・奈良と多方面から参加して頂き合計16名で活動を行いました。初参加者も多かったのですが、それぞれの持ち味を生かして、頑張っていました。

以前は、毎回技工士が参加して入れ歯を作製していましたが、10年程前からは2月チームでのみ入れ歯を作製するようになりました。昨年11月のフィリピンでの活動中に、すでに15名の入れ歯を作って欲しいとの予約があり、今回殆どの予約患者が遠い島からも、来院しました。当日それ以外に15名を追加して、30名の患者の入れ歯(30床)を作製しました。技工士は、河内・中辻・橋口とベテラン最強メンバーでしたので、スムーズに行うことができました。

最終日の終わる間際に島民の患者さんが来院し、口腔内を診ると義歯破損と上顎前歯部に残根があり、粘膜異常によりフラビーガム(潰瘍)を起こしていたので、早速治療にとりかかり、デンチャー印象(入れ歯の型取り)⇒残根抜歯⇒止血の間に模型作製し、蠟にて噛み合わせ採取⇒デンチャー作製⇒デンチャーセット⇒調整。これを、たったの2時間で終了することができました。ドクターと技工士との連携の素晴らしいチームワークでした。

2006年から島の子ども達の追跡調査をおこなっていて、その中の1人サマリノ・ジョマールさんは、16歳にして上顎に歯が3本しか残っていませんでした。本人はとてもシャイな性格で恐怖心から治療を拒み続けていましたが、今回やっと彼女は治療を受ける決心がつき、入れ歯を作製しました、ジョマールさんは素晴らしい笑顔を取り戻しました。その時廻りから拍手がおこり、とても良い空気が漂いました。

毎回小学校の生徒達に、歯ブラシや文房具をドネーションし、歯の検診も行っています。口腔衛生と予防処置(シーラント)に力を入れているので、島民の歯科に対しての意識レベルも高まり、虫歯も減少しつつあります。

又、カオハガン島以外の周りの島々からの患者が年々多くなっています。

「継続は力なり」と申しますが、継続の重要性を感じました。これからも、島民の健康維持と口腔衛生向上の為、努力して行きたいと考えています。

データ

治療結果

	7日	8日	9日	10日	合計
抜歯	63	91本	39本		193本
CR	14	18本	15本	2本	49本
セメント	51	45本	15本		111本
SC	4人	12人	7人		23人
義歯修理	2人	2人	2人		6人
義歯	18人	6人7床	15人24床		39人31床
検診	34人	37人	3人		74人
人数	77	87人	49人	1人	214人

島別受診者	
カオハガン	60人
カオハガンスクール	65人
パンガアン	14人
クアミング	0人
カブルアン	8人
サンタロッサ	3人
バンダノン	34人
セブ	4人
ボホール	0人
サンビセンテ	1人
合計	189人

